

幕末に 世界一周 やってみた

6



万延元年閏三月十八日
(五月七日)
ローノーク号は
ニューヨークの手前の
サンディ・フックに錨を下ろす

算之^{かぞえ}尽^{つく}し 霞^{かすみ}ミ残^{のこ}せし 船^{ふね}の 数^{かず}

構成 川合登志和
漫画 秋桜



上陸前の荷物検査も
終わったし
あとは上陸を待つのみ
じゃな…

さすがにニューヨークは
繁花の地だけあって
行きかう船も様々



この電信というもの
針のようなものを束ねた導線を
七〜八間ごとに立てた電柱で引いて
ワシントンを中心に四方八方に
張り巡らされておる

急ぎの知らせなど
数時間で返信が
くるそうじゃ
すごいのお！



寒いので
綿入^{わたいれ}を
着^きている

…と意気揚々と一句詠んだものの
ニューヨークではなくワシントンに
直接行けと指示があったようじゃの…

ローノーク号の乗組員は
ニューヨークの出身者が多いので
マクルーニー提督がなんとか
ニューヨークに上陸できないかと
電信で交渉しておるそうじゃよ

※1間=1.8m



おお！
来たかー！

翌日
船だ！
ワシントンへの
船が来たぞ！

結局ワシントンから
上陸することになったので
ニューヨークから四十一里ほど
離れたハンプトンローズの港に
向かったんじゃ



四〜五日ニューヨーク沖の
サンディ・フックで停泊していた
ローノーク号は錨をあげて
西へ進路を取った



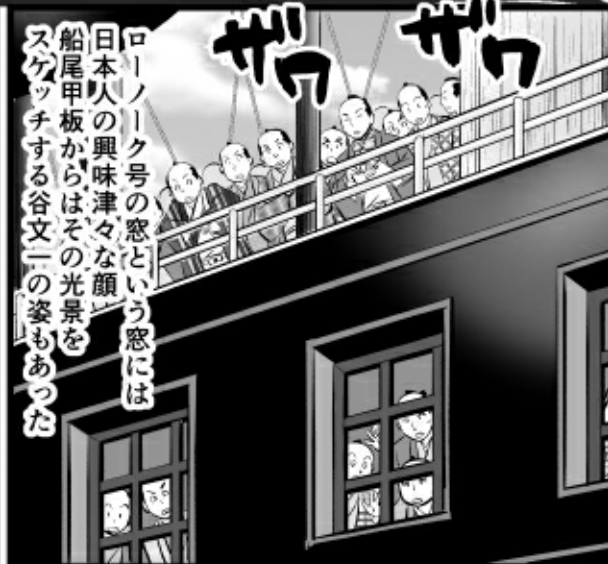
フィラデルフィア号
長さ二〇一フィート
幅二十九フィート
水底九フィート
重さ百四トン

※1フィート=約0.3m(長さや幅は素毛の記録による)



わしの姿も
描かれとったかも
しれんのう…

余談ではあるが
谷文一だけに限らず素毛や木村鉄太など
あらゆるものをスケッチする日本人の姿は
アメリカの新聞に風刺画として掲載された



ローノーク号の窓という窓には
日本人の興味津々な顔を
船尾甲板からはその光景を
スケッチする谷文一の姿もあつた



……
……
……
数えたのか…

フィラデルフィア号は三階層の造りで
従者以下の者の部屋は二階にあり
個室がカーテンでじきられていた
一三八か所も
押入れのように
仕切つてあるのか…



ありがとう
ローノーク号!

Hurray!
Hurray!

ローノーク号で歓迎委員らと
使節団紹介レセプションの後
一行はフィラデルフィア号へ乗船した



おおづつ かげろう た あめまかな
大筒に陽炎の立つ 雨間哉

こいで一句!



おおーッ!!

日本人が上陸すると
 祝砲二十一発が打たれる

一行はフィラデルフィア号で昼食をとった後
 モンロー砦のデイミックス司令官から、砦
 の見学を勧められたので上陸することになった



日本人はやはり
 城の防衛の見識からか
 濠や城壁や砲台を
 興味深く眺めていたと
 現地の新聞に
 書かれたんじゃよ

モンロー砦は河岸より
 一町あたりに台場があり
 内側に幅七〜八間の濠を造り
 郭が備えてあるんじゃ
 石垣の高さはおよそ二間
 幅一丈三尺ほどで
 壁に大砲の開口部がある
 中には車付きの弾丸箱などが
 置かれて…(長くなるので以下略)

スケッチしたんじゃが
 描ききれんかったわ!

東側に砦の外側に
 もう一つ大砲を置いた
 壁があり
 素毛は天石をもって
 石垣をなし内に
 大砲数百挺を並べ…
 と記述している

※1町=約109m 1間=約1.8m 1丈=10尺(1尺=0.3m)



ずいぶん人家も多く
 なってきたから
 ここがワシントン
 なのかのう?

わざわざ川を下っていく船まで
 日本人見たさに近寄ってくる



まるで松島を
 巡っているようじゃ
松島をめぐる心地ぞ 春の川

まつしま

その後フィラデルフィア号は
 ワシントンへ向けポトマック川を遡る
 鳥が舞い両河岸には
 青々とした草が生い茂り
 小麦の畑や牛の放牧…
 のどかじゃのう



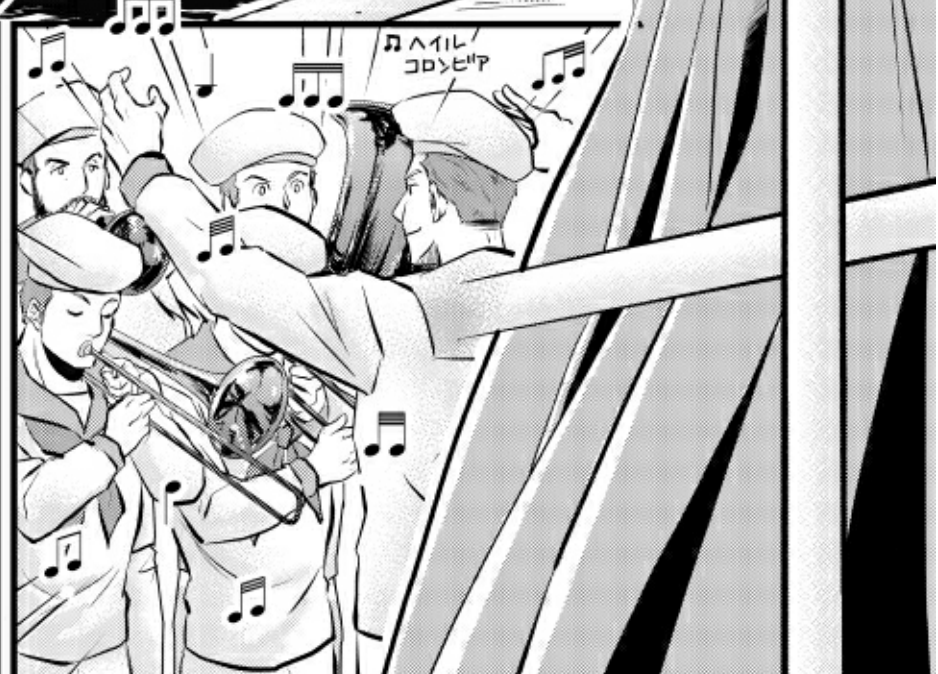
江戸を出航して
九十七日目



ワシントン
は右に
見えてくるはずだ

あれが…

ワシントン
華盛頓!!





ワシントン上陸なのでな
三使は黒紋付に野袴
わしら従者はたっつけ袴姿じゃ

馬車には正使の新見様と副使の村垣様が
次に目付の小栗様と勘定方の森田様が
従者以下の者は四人くらいが同乗した



屋頂ワシントン海軍工廠に
上陸したんじゃが
いや〜すごい人だかりで
びっくりしたわ!

一行は官舎で休憩した後に
ウィラードホテルに向かうことになった

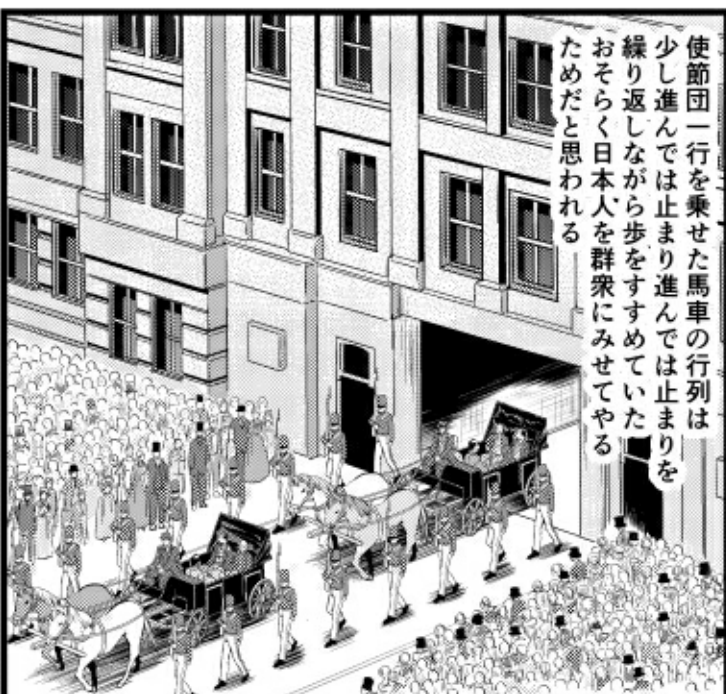


太鼓や笛・喇叭の音楽を
流しながら進むのか!
号令によって綺麗に
進むもんじゃな!

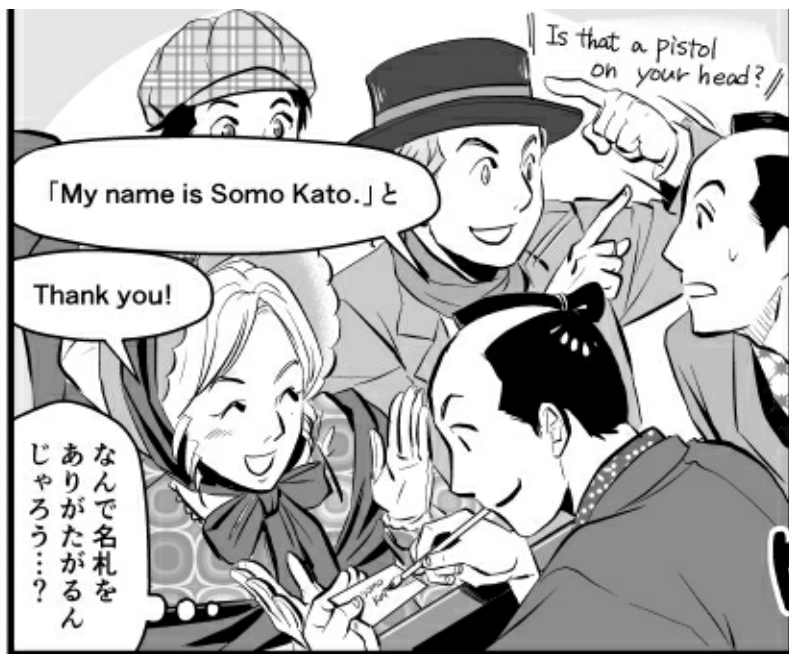


ハリスウ!
(How are you?)

ハリスウ!
(How are you?)



使節団一行を乗せた馬車の行列は
少し進んでは止まり進んでは止まりを
繰り返しながら歩をすすめていた
おそらく日本人を群衆にみせてやる
ためだと思われる



「My name is Somo Kato.」と

Thank you!

なんで名札を
ありがたがるん
じゃろう…?

Is that a pistol
on your head?!



イウネイム?
(Your name?)

な…なんと
言うて
おるのじゃ?

「貴公の名は何と
申しまするか」と
聞いておるのじゃよ

おお!
ポウハタン号で
ウッド牧師に
英語を習ってただけ
あるなあ!



Japan smokes?
Give me some!

日本のタバコが
欲しいそうじゃ

わははは

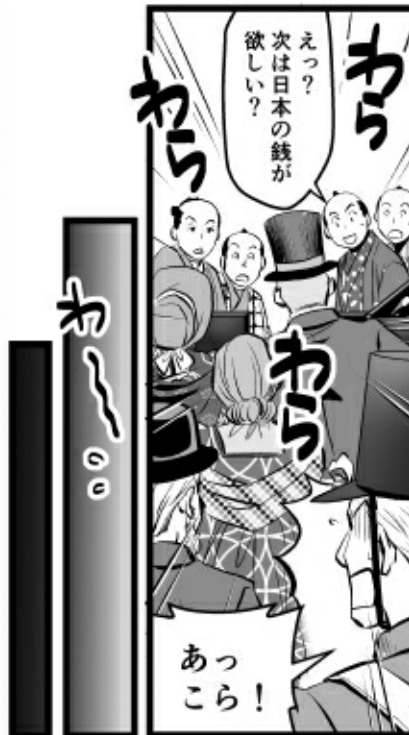
※素毛の記録による



旅館ウイラルルツホーラル
(ウイラードホテル)に
到着したのはなんと十一時!
七層建ての大きな宿で
五十間の壁面が四面にあって
建物の高さは七丈!
部屋数は七百もあるそうじゃ!
こんな宿日本にはないぞ!

宿の外観もびっくりドッキリじゃが
部屋の中も衝撃の連続じゃよ!
待て! 次号!

第7話へ
つづく



えっ?
次は日本の銭が
欲しい?

あっ
こら!

次回予告

